

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人天心会	代表者	飯塚 卓	法人・事業所の特徴	「利用者様が住み慣れたご自宅・地域で『その人らしく』生活できるよう寄り添い支援します」を事業所理念とし、利用者様が自分らしく安心して過ごせるよう、また、介護者様の不安や負担を軽減できるようサービスの提供を行います。 また利用者様、家族様の「思い」を大切に受け止め、利用者様が望む生活が送れるよう、利用者、家族との交流を深め、お一人お一人のご意向を大切にしています。 ご家族とともに医療機関や系列の専門職種との連携をしながら、心身の変化に対応すべく情報共有に努めます。
事業所名	ユースフルまつやま	管理者	大河原 周子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	2人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認			民生委員や地域の資源等を把握している職員が少ない。 質問項目として、返答が難しい。 きちんと会議で説明をしながらなど、方法をよく検討してほしい。	民生委員をはじめ地域の資源について、一職員も把握できるよう管理者・ケアマネが情報発信していく。 次年度の自己評価の方法について再検討する。
B. 事業所のしつらえ・環境			看板がない。どこから入れば、ユースフルに行けるかわからない。 案内看板の設置をしてほしい。  下記C項D項の地域に出向く取組を積極的に行っていき、看板がなくても「ユースフルまつやま」の名前を知ってもらうべき。	平成28年度の事業計画として、正面の看板と、ケアハイツ駐車場から左折するところに看板の設置を提案する。
C. 事業所と地域のかかわり			○地域への情報発信（チラシ等）する。 ○福祉マップ等々の情報はあがるが、地域住民が介護サービスを利用しようとするときに、リハビリ目的か認知症予防か、大きな事業所かそうではないのか、などどこがどのような特色があるのかわからない。結果、居宅ケアマネ任せになってしまっている。	市高齢福祉課の福祉マップ作成時に、事業所の特色の記載など、事業所も参加する場を一緒に考えていく。まずは、他事業所へもお声掛け宜しくお願ひします。

<p>D. 地域に出向いて 本人の暮らしを ささえる取組み</p>			<p>○松山地区の行事に、利用者1～2名でも、参加していく。 ○運営推進会議にはご出席いただいているが、利用者それぞれの住む地域の方との会議はできていない。 ～中学校区域で医療も介護も受けられることを、国は推進しているが、今後大きな課題です。 ○ご近所の方を気軽に相談していただけるような事業所になっていきたい。 ○利用者それぞれの地域に出向くこと、現状ではかなり難しい。無理がある。</p>	<p>○村松、松山地区の行事への参加を計画する。 ○今後、毎回運営推進会議で、ご近所でご心配な方がおられないかお聞きする時間をとっていく。 ・地域の方からの問い合わせには、積極的に協力していく。</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>			<p>地域の方のご相談にのれる事業所窓口になっていきたい。</p>	<p>毎回運営推進会議で、ご近所でご心配なかがおられないかお聞きする時間をとっていく。 地域の方からの問い合わせには、積極的に協力していく。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>			<p>○立地上、法人内での防災計画となっており、地域の方と一緒に訓練は行っていない。 ○以前は運営推進会議に合わせて避難訓練などの行事を行っているときもあり、見ることもできた。 ○火災報知機でびっくりしてしまう利用者はいないのか。職員だけにわかる火災報知機などの検討も必要なのでは。 ○夜間想定も行っている。昼寝のあとに行う事業所もある。 ○立地条件として、外に出ると砂利道になっている。万が一に備えて舗装は必要ではないか。 ○利用者家族としては、いつも「今日避難訓練をしました」とい</p>	<p>○平成28年度事業計画として、舗装等、避難経路確保の検討をしていく。水はけ等の問題あるとことなるも、次年度の検討課題として具申していく。 ○事前に避難訓練等の行事計画を、ご家族へお知らせしていく。</p>

			<p>う話は聞くので、一度見学してみたいと思っていた。事前に家族に連絡をしてもらえると嬉しい。</p>	
--	--	--	---	--